



学生と協奏するFD： 学生参画で具現化する 「四弘誓願」の理念

武蔵野大学響学開発センター開設記念シンポジウム

日時：2024年3月9日（土）14：00～17：00

場所：武蔵野大学有明キャンパス3号館3-301教室

田中正弘（筑波大学）

FDとは？



教員Aの答え：

FDとは、教育改善のことである。

教員が自らの教育内容・方法の問題を見つけ、
それらを改善していく営みを表す。

これって本当？

学生Bの答え：

FDとは、私たちが「楽しく学べる」ように、
教員が教育を改めてくれるものです。



これも本当？

貴学の定義（FD）

- FD（ファカルティー・ディベロップメント）とは、組織的な教育内容・教育方法改善に関する**教員啓発活動**のことです。
- 武蔵野大学では、武蔵野大学の教育理念の実現に向け、FDを積極的に推進し、学部学科及び大学院の教育方法を改善、向上することを目的としています。

私は、この定義に少し逆らってみたいと存じます。



教員と学生の不幸な関係



教員Cの意見：

私は一生懸命教えているし、日々の改善にも
努めている。

学生Dの意見：

私が理解できないのは教員の教え方が下手だからだ。
予備校の先生はもっと分かりやすかった。



不幸な関係を解消するためのFD

- FD＝教育改善だけではない。
- 学生の学びの改善（学修成果の向上）がFDの最終目的であるべき。



- FDは教員、職員、学生が協働（協奏）して取り組むべき。
 - 学修成果を向上させる当事者の学生、教育環境を管理してくれる職員、彼ら／彼女らとの協働作業を通して、学修成果の向上につながる教育改善の在り方を探求しなければ、学修成果の向上は難しいと思われるため。

貴学のFDSD運営方針

●令和4年度FDSD 運営方針

- 『何を教えたか』から『何を学び、身に付けることができたのか』へ



- 『教員が何をどのように教えるかのFD』から、
- 『学生が何かをより多く深く学び、身に付けるためには、どうすればよいかのFD』へ

学生との協奏が不可欠

本発表の目的

- 学生と協奏するFDの在り方について、学生参画の観点から、参加者と議論する場を提供する。

目次

01

学生参画

02

学生FD

03

学生と協奏するFD

04

まとめ

1. 学生参画



学生参画の三類型

- 学生参画の領域は，ヒーリーほか（Healey, et.al. 2010: 22）によると、下記の三つに分けられる。
 - ミクロ： 学生個人や他の学生の学修活動への参画
 - 例：ピアサポートなどへの関与
 - メゾ： 質保証・向上プロセスへの参画
 - 例：学生FDなどへの参加
 - マクロ： 戦略策定（ガバナンス）への参画
 - 例：教員学生協議会などへの出席

出典：Healey, M., Mason-O'Connor, K. and Broadfoot, P., (2010) “Reflections on Engaging Student in the Process and Product of Strategy Development for Learning, Teaching, and Assessment: An institutional case study,” *International Journal for Academic Development*, 15(1), 19-32.

学生参画の定義

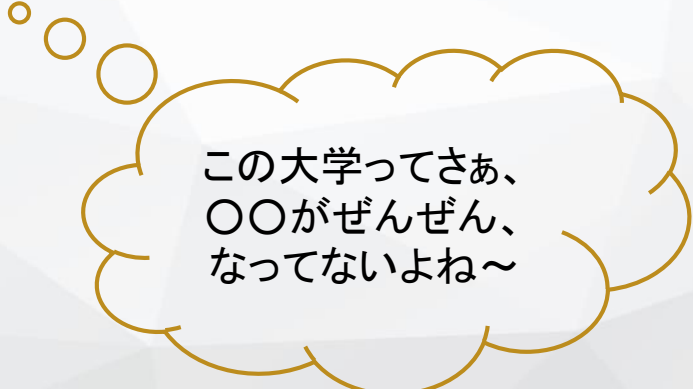
「学生参画」とは、ヒーリーほか（2010）の三類型に従って、

- ① 学生個人および同僚の学習成果を最大化する目的で、または、
- ② 大学教育の質を保証・向上させる目的で、あるいは、
- ③ 大学の運営に学生・大学・社会の利益を反映させる目的で、

学生が自らの労力や情報を大学に提供することである（田中2018: 19）。

学生参画の目標

- 学生参画の目標は，各学生の「**所属意識**」（a sense of belonging）を醸成し，互いに共有することである（Brand and Millard 2019）。
 - 所属意識の高い学生は，自らの大学を「**うちの大学**」と呼びます。
 - 低い学生は，「**この大学**」と呼びます。



この大学ってさあ、
〇〇がぜんぜん、
なってないよね～

出典：Brand, Stuart and Millard, Luke (2019) “Student Engagement in Quality in UK Higher education, More than assurance?”, in Masahiro Tanaka, *Student Engagement and Quality Assurance in Higher Education, International Collaborations for the Enhancement of Learning*, London: Routledge, 35-45.

印象的な学生

- 札幌大学の「札大おこし隊！」という学生FD組織の訪問調査の際に、印象的な男子学生と出会った。
 - 彼は奇抜な服装であったが温和な好青年に見えた。
 - ところが、他のメンバーによると、1年生の頃の彼は髪を金色に染め、目つきが殺気立っており、とても話しかけられる姿ではなかった。
- 彼曰く、「当時は**大学に居場所がなく**、全てがつまらなかった」とのことで、学生FDに出会えた（つまり、**他者に必要とされる＝所属意識を持てた**）ことは、彼にとって人生の転換点だったのかもしれない。

出典：田中正弘（2018）「日本の大学における学生参画—質保証への参画を中心として—」『大学研究』45，17-29頁。

2. 学生FD



学生FD（貴学）

令和4年度FDSD運営方針

・学科・研究科主体のFD活動を推進

各学科が4年に1度程度**学生FDを実施**し、学科内で学生の授業への主体的参加をより高めるための課題、ノウハウ、スキルを共有する

学生FD

学生FD

開催日：令和元年9月10日（火）

テーマ：
理想の授業について考えよう

サブテーマ：
授業理解度が向上するための理想の授業
授業の予復習時間が増加するための理想の授業

趣意

現在、日本の大学では様々な形での教育改革が求められており、今回の学生FDは学修者本位の教育をつくり上げることが目的である。また、武蔵野大学として、学生一人ひとりが学び、成長し大学を築っていくことを求めている、そのためにも、学生に教育改革に参加してもらい、教職員とともに協力してより良い大学を作ること望んでいることなどが北條教務部長より説明された。



教務部長 北條 英勝 教授

タイムスケジュール

開会挨拶	5分	北條教務部長
運営説明	10分	当日の運営について説明
自己紹介と役割設定	11分	自己紹介：1分×5～6名 役割設定：5分
グループディスカッション	50分	25分×2
まとめ	5分	発表準備
休憩	10分	
発表	15分	3グループ発表 5分×3グループ
振り返り	12分	各グループ 2分×5～6名
総括	5分	北條教務部長



グループ分け

グループ名	学生	教員	コーディネーター	総人数
A グループ	遠藤 翼さん（文学部日本文学文化学科4年） 村松 波さん（工学部数理工学科2年） 島田 樹さん（法学部政治学科2年）	三次 真理 准教授 （看護学部看護学科）	間中 和歌江 准教授 （教養教育部会）	5名
B グループ	王 博さん（グローバル学部グローバルコミュニケーション学科3年） 矢部 魁一さん（人間科学部人間科学科2年） 岡本 吉香さん（看護学部看護学科2年）	高橋 大樹 准教授 （経営学部経営学科）	楊 昆鵬 准教授 （文学部日本文学文化学科）	5名
C グループ	片田 綾音さん（文学部日本文学文化学科3年） 杉田 光さん（教育学部教育学科3年） HA ANH THU さん（経済学部経営学科2年） 渡部 愛梨さん（看護学部看護学科2年）	神吉 宇一 准教授（言語文化研究科）		5名

出典：武蔵野大学「FD Report 2022」、3頁、武蔵野大学「FD Report 2019」、8-9頁

学生FDとは

- 2000年代後半頃に、「学生FD」が、立命館などの私立大学に広まった（木野 2012）。
- 木野（2012: 91-8）によると、学生FDとは、学生と教職員の懇談会（「しゃべり場」など）、学生による授業紹介や授業改善の提案、学生による生活・学修環境改善の提案、学生FDの広報などの活動を含む。
- 学生FDの特徴は多くの場合、大学の正式なメンバーではなく、**ボランティアの学生**で構成されていることである。

ボランティア活動の利点・欠点

- 利点は、①意識の高い学生で構成されること、②学生の主体性が尊重されること、③従来のFD委員会を改組しなくてもよいことなどである。
- 欠点は、①学生の改革案を学生が議決する権利がないこと、②属人的な取組で持続性に問題があること、③学生FDは「楽しくなければならない」（大崎 2012: 143）ことなどである。
 - 楽しくなければならない理由は、権利でも義務でもなく興味で参加している学生をつなぎ止めるためである。それ故に、学生FDはイベント（お祭り）活動に偏る傾向が見られる。

北翔大学の学生FD（1/2）



●学生FD「翔タイム！ 10年後の北翔大学を考えてみよう」

- 主催：学生FD「北翔アンビエント」
- 開催日：2023年8月2日(水)
- 参加者：学生21名／教員8名／職員7名



出典：北翔大学HP「学生の活躍」（<https://www.hokusho-u.ac.jp/info/?i=3442&cat=16> アクセス日：2024年2月19日）

北翔大学の学生FD（2/2）



私が「北翔アンビエント」に出会ったのは大学1年生の6月でした。その頃は第一志望である国公立の大学に落ちたということから「**自分はなぜこんな大学に在るんだろう**」という自惚れと劣等感の塊でした。

しかし、北翔アンビエントでの活動を通していろいろな人と関わっていくことで「自分はまだまだ未熟だな」ということを実感したり、「出来ないことがあった」「人にはそれぞれの役割があるんだ」という様々な気づきを見ることが出来ました。

もし、入学した当初の自分のまま大学生活を過ごしていたら、世の中の多様性を認めることが出来ずに、**自分の殻に閉じこもったまま社会に出てしまい、社会人になっても一生そのことをぼやき続けるような大人になってしまっていた**と思います。

学生FDのすゝめ

- 学生FDは、内部質保証制度としては**不完全**なもの
- しかし、学生の成長としては**魅力的**なもの
 - 特に、「学生FDに助けられた」という意見は、多くの大学の学生から述べられている。

イベント活動の企画などの経験を通した学生の
人間的成長が目覚ましいことから、
梅村（2012: 193）は「一人ひとりの学生の
成長が授業を変え、大学を変えていくと信じて
いる」と述べている。

出典：梅村修（2012）「学生FDスタッフ」木野茂（編）『大学を変える，学生が変える』ナカニシヤ出版，167-94頁。

3. 学生と協奏 するFD



学生と協奏するFDとは

- 学生・教員・職員が**対等な業務パートナー**として、教育の質の向上に努めること。
 - 対等なパートナーとは、立場上同格であるということよりも、相互の信頼関係の下で、お互いがお互いの強みを活かしつつ、協働・協奏（分担でもよい）できること。

学生参画で具現化する「四弘誓願」の理念

- 学生FDの活動は、次の世代（後輩）の教育をよくするための試みといえる。
 - つまり、自分のためではない。
- しかし、他者のために行う行為は、自分の成長のためでもある。



- 全ての人を救うために何をすべきか宣言した、菩薩の目指す「四弘誓願」の理念に通じるものといえる。

4. まとめ



まとめ

- FDは、教員だけで行うべきものではない。
- 学生や職員と協奏しながら行うべきものである。
- その協奏の形は多様にあれども、その最終目的は一つしかない。
- それはすなわち、**次の世代の学びの向上**である。
- その副次的効果として、関係者の成長（幸せ）も見込める。



ご清聴ありがとうございました。